

拓水

11月号
No. 218

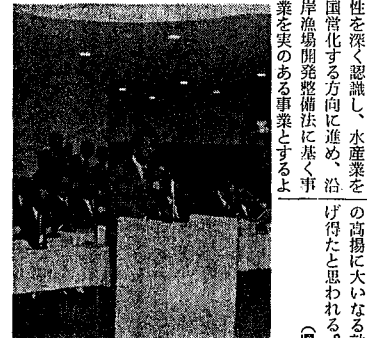
発行所

兵庫県漁業協同組合連合会
兵庫県水産改良普及協
〒652
神戸市兵庫区新在家町123
発行人 山田岸松
TEL 671-6685・681-6954
編集 拓水編集委員会
部 10円

水産政治力結集が先決？ 長崎の水産振興会議で

西日本地区三府二県の水産関係者ならびに中央水産関係者は、去る十月三日長崎市において昭和四十九年度西日本水産振興会議を開き、政府・与党の代表を迎え、難局下にある水産界の中において西日本地区の水産業界が当面する諸問題について活発な提言と意見の交換を行った。

この会議は大日本水産会一元関係者参議院議員など政界を提唱し、東西二ブロック府・与党関係者の臨席も国営化する方向に進め、沿岸・国際漁業、漁業経営、安定、水産金融、漁港整備に於ける。又、東西地区会議の集約は、来る十二月の中央大会で一括提議され、この来年度国庫予算、政策面に大きく反映されるものである。



「水産業を国営化に……」熱弁する酒部県漁連副会長

瀬戸内海

水産課長協議会開かる

一城崎町

さる昭和四十九年十月八日、十九日の二日間、兵庫県城崎町において、瀬戸内海側各府県の水産課長協議会が開かれ、昭和五十年年度予算時期を控えて、瀬戸内海漁業の当面する諸問題について活発な意見の交換があった。当日協議された事項及び国に対して要望事項等について一部を簡単に紹介しておく。

(要望事項)

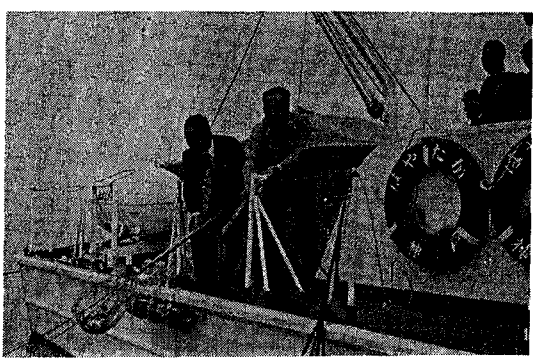
- 一、沿岸漁港整備開港法による事業実施にあたり国の大巾助成を要望する。
- 二、第二次沿岸漁業構造改善事業の終了した地域における漁場整備事業(つききり及び並型魚礁)を推進し、我々漁業者の為に役所側で色々と努力されていることに感謝するとともに、今後とも、官民一体となって、去る困難な問題に対処し解決していくよう、大いに心を引かして、頑張っていくことを誓いたい。

必要経費に対する国費補助の完全実施を希望された。

六、漁業公書の予察、予報に必要の観測データの購入費を望むと同時に、防波堤等の海上不法投棄に対し、現在県単独で監視事業を実施しているが、これを国の事業として実施されるよう措置されたい。

以上が今回の水産課長協議会の主な議題であるが、業界としてもこれらの主旨を十分に理解し、我々漁業者の為に役所側で色々と努力されていることに感謝するとともに、今後とも、官民一体となって、去る困難な問題に対処し解決していくよう、大いに心を引かして、頑張っていくことを誓いたい。

(黒漁連)



兵庫県立水産試験場創立50周年記念事業

「放魚祭」

—五色町稚魚育成漁場—

大正十三年、明石に県立水産試験場が設立されてから五十年の歳月がたち、その間水産試験場は海洋観測、漁撈、養殖、加工等の試験研究と技術開発を重ね、本県水産業の発展に大きな功績を残しました。

「立派に育ってくれよ」

期待している栽培漁業の重要性と、水産資源の回復、保護の啓蒙をはかるという目的と、さらには本県漁業の発展と大漁を祈願して、盛大に「放魚祭」が実施されました。本年唯一の明るいニュースとして、この概要をお知らせします。

十月十二日早朝から、沼島漁港に立寄る「はやたか」の周遊し、今か今かと期待している稚魚は、まことに生き生きとした感動さえ覚える光景でした。

翌朝のうちに無事終了しましたが、放魚の後には「はやたか」の周遊し、今か今かと期待している稚魚は、まことに生き生きとした感動さえ覚える光景でした。

漁獲量は昨年比しやや少なく、価格もオス大一尾四千二百円、メス一箱(二十キロ)四万五千円(津屋山)と昨年並かやや下回り気味の相場で、諸物価値上りのなかで、漁業者の期待を裏切った感がある。

日本海の冬の味覚ズワイガニ漁が解禁され、十一月五日但馬沿岸五漁協所属の沖合、小型底びき漁船百八隻が、せいに出現し、本県沖合など近くで操業した五十隻が船着して初せりが行なわれま。

海上電機が皆様に贈る新製品
小型漁船からレジャーボートに友達が一人増えました
これからの海に是非お供させて下さい

フィッシュパイロット
Z-1・マークII
中型、大型も各種取揃えています

海上電機株式会社
神戸市生田区明石町32 電話 391-4301

余裕馬力の差が
大漁をお約束します

新発売

- 内海沿岸漁業に最適 M3G=30馬力 1400回転
- 内海沿岸の底引きに最適 3GC=農林15馬力 1200回転

ゆたかな人間環境づくり

久保田鉄工

10月の漁況と海況 (内海側)

●海況

※播磨灘……1～2日の調査結果による水温分布は東部各層とも24.0°～24.3°C、北西部各層とも24.5°C内外、底層23.2°Cを示し平年比較では各層とも+0.5～+1.0°Cとも高目。ほぼ平年並かやや高目となっている。

※大阪湾西部(淡路島寄り)……19日の調査結果では、北部各層とも23.4°C、南部表・中層23.5°C内外、底層23.2°Cを示し平年比較では各層とも+0.5～+1.0°Cとも高目。

※紀伊水道北部……19日の調査結果では東部各層とも23.5°～23.7°C、中部表・中層23.5°C、底層23.9°～24.1°C、西部各層とも23.3°Cを示し、平年比較では全域各層にわたって+1.1°～+1.3°C、特に中部の底層では+1.6°Cとかなり高目な高目を示している。

●漁況(概況)

県下内海各沿岸地区では上旬にノリ採苗を開始し、芽付は全般に、良好で網展開期に入り、従って淡路南部を除き、各地の漁船漁業は急速に低調となった。現在明石瀬戸及び東・西海域では小型底曳網でカワハギ、メイトカレイ、ハリイカ、タコ、エビ、曳網でタチウオ、浮流し釣でサワラ、一本釣でウマズラハギ、ハリイカ、メバル、延縄でキス、アマカレイ、メバル、船曳網でカタクチイワシ、吾智網でタイなど。友ヶ島水道及び南・北海域では小型底曳網でウマズラハギ、イボダイ、キス、ハリイカ、刺網でキス、チヌ、ペラ、延縄でヨコワ、アナゴ、カサゴ、曳網でタチウオ、ハマチ、一本釣でウマズラハギ、アジなど。沼島周辺及び南・西海域では小型底曳網でガザミ、キス、エビ、一本釣でタイアジ、延縄でヨコワ、フグ、刺網でガザミ、ウマズラハギ、八田網で豆アジ、鴨門海峡及び南・北海域ではガザミ、エビ、曳網でハマチ、サゴシ、タチウオ、延縄でフグ、八田網で豆アジ、船曳網でマイワシなど。播磨灘・中部では流し刺網でサワラ、延縄でフグ、北部では小型底曳網でエビ、カレイ、シャコ、タコ、イカ、一本釣及び刺網でズキキなどとなっている。

●各地

(注以下は1日1隻当りの漁獲量、@は1kg当りの値段、何隻は操業隻数)

明石浦 小型底曳網メイトカレイ13キロ@3,000、@1,750、カワハギ17キロ@1,300、タコ13キロ@500、ハリイカ7キロ@800、エビ5キロ@1,300、15隻。タチウオ曳網50キロ@450、13隻。サワラ浮流し釣17キロ(7～8尾)@1,300、15隻。ウマズラハギ一本釣13キロ@900、2隻。延縄アマカレイ18キロ@1,650、メバル20キロ@1,000、グチ30キロ@300@100、2隻。ブンチン漕イシカレイ10キロ@1,250イボダイ5キロ@450、7隻。

岩屋 小型底曳網エビ15キロ@3,100、@375、ハリイカ2キロ@500、ハモ2キロ@1,500、30隻。タイ吾智網5キロ@5,750、10隻。イワシ船曳網4,000キロ@35～1505隻。サワラ浮流し釣10キロ@1,350、30隻。各一本釣ハリイカ10キロ@725、25隻。メバル7キロ@1,300、25隻。各延縄フグ11キロ@4,250、15隻。キス33キロ@1,250、メバル3キロ@1,000、10隻。各刺網アマカレイ5キロ@2,250、メバル3キロ@1,300、4隻。キス25キロ@1,050、6隻。

由良 各小型底曳網ウマズラハギ600キロ@30、13隻。イボダイ11キロ@900、キス7キロ@900、ハリイカ6キロ@1,000、その他10キロ@300、48隻。各刺網キス18キロ@1,000、18隻。ペラ8キロ@600、メイトカレイ3キロ@2,800、チヌ5キロ@2,100、その他11キロ@800、17隻。各延縄コウワ35キロ@1,000、6隻。アナゴ10キロ@1,000、カサゴ10キロ@800、その他7キロ@700、6隻。各曳網タチウオ50キロ@250、70隻。ハマチ14キロ@1,300、10隻。各一本釣ウマズラハギ30キロ@150、15隻。アジ12キロ@1,400、10隻。突棒アワビ7キロ@2,000、サザエ11キロ@500、7隻。テングサ採集150キロ@40、8隻。

沼島 小型底曳網ガザミ13キロ@900、キス17キロ@350、カワツエビ5キロ@750、雑エビ5キロ@650、43隻。各一本釣タイ5キロ@4,500@3,500@2,100、3隻。アジ20キロ@700、10隻。延縄コウワ75キロ@900、(目廻3～7キロ)フグ1キロ@4,000、@3,000、34隻。各刺網ガザミ4キロ@1,000、ガザミ@50キロ@400、5隻。ウマズラハギ25キロ@400、カワハギ5キロ@850、20隻。突棒サザエ5キロ@500、タコ3キロ@600@300、5隻。八田網豆アジ450～600キロ@230、2隻。

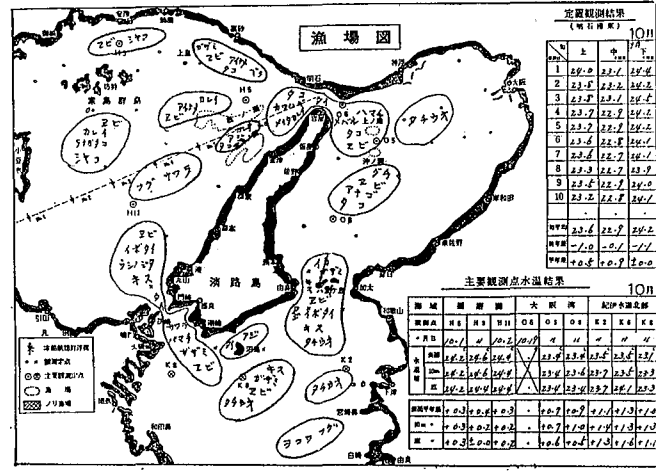
福良 石網ガザミ@15キロ@700、ガザミ@225キロ@100、シラサエビ1キロ@3,000雑エビ1キロ@200、35隻。各曳網ハマチ35キロ@700、35隻。タチウオ100キロ@400、@270、@150、30隻。サゴシ7キロ@700、(目廻700～800g)20隻。フグ延縄13キロ@3,600、8隻。船曳網マイワシ2,000キロ@50、4隻。八田網豆アジ300キロ@230、1隻。突棒アワビ15キロ@1,400、ウニ30箱@620、サザエ15キロ@375、30隻。

●本月の特記事項

※紀伊水道北部海域で操業中のヨコワ延縄漁は、本月に入り盛漁期を迎え1日1隻当り50～100キロ(1尾目廻3～7キロ)の好漁獲量を示し、従って出漁船も多くなり久方ぶりの豊漁。

※本夏より内海各域ではウマズラハギの来遊量が昭和46年に次いで顕著であるが、本月に入って、友ヶ島水道南・北海域では小型底曳網1日1隻当り600キロの豊漁を示している反面エビ類の入網が極端に減少している。

※淡路南部海域で操業中の板曳網、石栴網に昨年引続きガザミの入網が顕著であるが、特に本月に入り鴨門南部～沼島西部海域で操業中の石栴網で1日1隻当り大型ガザミ10～20kg、小型ガザミ200～250kgの爆発的入網をみている。また同海域では曳網によるハマチの好漁も持続している。(水試 岩井)



スミノリ現象について (1)

兵庫県水産試験場 山内 幸児

いわずの「スミノリ」といって、ノリを加工した時、文字どおり、艶の全くない灰のような製品になるの異常現象のことを指します。

この現象は、まだ発生要因不明な点が多いため、この調査の概要を報告します。

姫路市東部漁場では、10月上旬から11月中旬まで主に支柱漁場を採苗期し、11月20日から地先の入合の浮流し漁場を本張を開始して、まだ病名として確定されていませんが、これまで、香川山口有明、愛知などで大きな被害が発生しており、この対策が急がれています。

本県では、昨年度まで初摘採のノリや冷凍網などに、いづれも小規模で観察された例はありますが、大きな被害がでた例はありませんでした。

しかし、本年の11月12日中に姫路市東部漁場全域でスミノリによる大きな被害が観察されました。

多数の死細胞が点在し、細胞は隙間が大きく、色素の収縮や液胞が増大し、顆粒を呈しているのが観察されました。このような葉体は、15°Cで淡水に浸漬すると、1～2分程度で、各細胞が著しく球状になり、液胞が増大し、色素体が破裂して細胞質が吐出した状態を観察することができました。

12月9日の調査でも、採集した標本(群葉長15×140mm)の大部分に病変葉体が観察されました。

この葉体は、リクモフォラなどの球藻が付着しており、表面が細かいしわ状やカスリ状になり、葉体がやや透明な薄茶色の感じになりました。検鏡すると、葉面に

多くの病変葉体を観察でき、この葉体は付着球藻が著しく、葉体色はくすんだ濃茶色を呈し、葉面の凹凸が大きく、死細胞が点在し、細かいチリメン状を呈しています。なお、15°C淡水浸漬では、2～5分程度で細胞が球状になり液胞の増大などが観察されましたが、以後12時間程度の浸漬でも、細胞壁の破裂や細胞質の吐出などは認められませんでした。

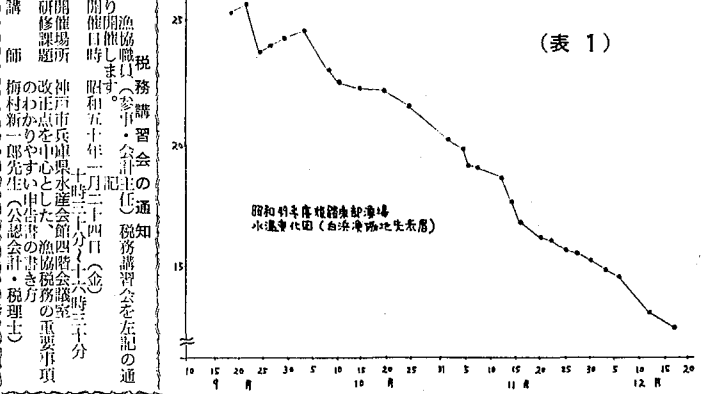
以上の調査の期間に、表1のように水温は、15/12°C台まで変化しましたが、15/13°C台まで、いわゆる「スミノリ」が最も良く観察されたことになりました。

この間、生産者は、ノリをミソ洗いしたり洗じょうする際、洗い水や砂き水が著しく赤褐色になり、全く艶のない製品になるなどの大きな被害をうけました。以て、スミノリ製品はほとんど観察されなくなりましたが、製

品に死葉や付着球藻が混入するなどの、品質の低下が続きました。

この対策として、関係組合で協議の上12月16日まで漁場整理を行ったり、半程度に減産したりなど、以後は各生産者自主規制とし一月の生産盛期を目標に生産回復を計っている現状です。

以上が、本県で初めて観察された、大規模の白ゲサレ症と、併発したスミノリ現象の調査の概況について、お話ししますが、いづれに於いてもこのような病徴が認められてからの対策では、生産回復が非常に遅く、以後の生産の低下が推察されるので、養殖開始時から漁場の環境に合せ統一した、予防管理体制を確立することが急務であると考えます。



養魚の調餌と造粒は

コウベヒラガのミートチョッパーで

養魚用ミートチョッパーA632からA72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チョッパーで給餌することもできます。

(脚一級次第カタログ贈呈いたします)

ミートチョッパーとプレート、ナイフの専門工場

株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8 TEL 代表神戸(078)62-1527

